



1月号

ひんやりとした空気を感じて  
長い廊下を進む  
今日もみんな元気だろうか

「先生」  
駆け寄つてくる姿があるか

「先生、ぼくね」  
「先生、わたしね」  
まっすぐみつめる目があるか

「はい」  
「はい」

教室から聞こえるはずんだ声  
どうやら元気そうだな  
一人が私の姿を見つけた

「あ、先生だ」  
「先生が来たぞ」

（新しい朝に）

平成4年1月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会



(笑顔は世界のことば — 山中小)

一 想 隨 教 育  
**二十一世紀日本の基礎固め**  
 —「理科バナレ」に思う—

愛知県立岡崎西高等学校校長 渡邊浩

パールハーバー五十周年が大きく報じられていた。すべてを失った敗戦後の人底を思うと、日本は本当に豊かになつた。このすさまじい経済発展をもたらしたのは、科学技術の発展の賜物であり、ひいてはこれまでの（理科）教育の成果によると言つても過言ではなかろう。日本は資源小国である。だから科学技術を発展させることによって、国際競争力を高めるよう努力してきた。二十一世紀の日本にあっても、基本的条件は変わらない。ところが、その日本の抛つて立つべき二十一世紀の科学技術の先行きを考えるとき、日本人は慢心しすぎて、誠に心もとないものである。例えば、戦後の教育課程の改訂は今度で六回目になるが、高等学校的物理・化学選択の生徒数を教科書需要数みると、当初九〇%台から現在は三、四〇%台まで激減している。理

一 想 隨 教 育

科に携わる者はこれを「理科バナレ」と呼んで、日本の行く末を案じている。日本の科学技術は、もともと欧米で長年の創造的基礎研究の末に結実した成果を導入して発展させた「モノ真似」技術である。それが、ここまで発展し得たのは、欧米の先行技術をもとに、日本人の教育レベルの高さと勤勉さの結果である。しかし、「モノ真似」では近未来に仮に日本の科学技術が世界のトップに立つた時、手本もなく、衰退していくのではないかという懸念があり、現にN-ES諸国が急進もみられる。この今までには、日本の繁栄は二十一世紀まで続かないだろうと心配する学者もいるほどだ。

理科教育に限らず、現在の日本の教育事情はその意味で心配なことが多い。それらは学校だけの問題ではなく、企業も家庭も、日本国民みんなで考え方がある必要がある。その口火を切るのは我々教師の責務ではないだろうか。

(わたなべ こういち)



は善であり、生産するための基礎を学ぶことは善であった。生産が善であるかどうか疑われる二十一世紀にはおそらく生産のスタイルも変わらざるを得まい。二十一世紀にはどういう科学を進歩させなければならぬかを、すべての人々で考えねばならない。そして科学技術が進めば進むほど、倫理觀が大きな問題になるのである。科学技術は自然を制御するがその科学技術を制御するのは、ほかなりぬ人間の手＝心であるからだ。自然

科学に対して直観的でよいかから基本的な理解ができ、倫理觀が確立していかれば、二十一世紀人たる資格がない。

「アメリカニコロニ」と言われる教育改革がアメリカで遂行中である。西暦二〇〇〇年までに児童生徒の理科と数学の学力を世界一にする計画である。モデルは日本らしい。日本が繁栄し続けるには技術力に一日の長のある今のうちに先行投資をしておかなければならぬ。それは科学の創造的基礎研究の推進であり、それを支える理科教育への取り組みである。多くの若者の中で起つてゐる「理科バナレ」こそ日本の将来を暗いものとすると言えよう。

理科教育に限らず、現在の日本の教育事情はその意味で心配なことが多い。それらは学校だけの問題ではなく、企業も家庭も、日本国民みんなで考え方がある必要がある。その口火を切るのは我々教師の責務ではないだろうか。

(わたなべ こういち)

自分と主人公との接点をとらえて書く



図書館指導員  
鈴木 純子

## 本の世界に遊び 本に漫る

巨大な立体絵本を作り、挿し絵の代わりに子供たちが登場人物になつて演技するというスケールの大きな授業をされたI先生。

題材は『そらいろのたね』（中川李枝子 福音館書店）、舞台係の子供と教師の手で教室に持ち込まれたのは、一ページがベニヤ板一枚ほどの大きな絵。それだけではない。ページをめくるたびに仕掛け絵本のように、窓がくりぬかれていたり、カーテンが開閉したり、家が大きくなつたりしたのである。巨大絵本の中に入つて登場人物になれるんだから子供の喜びようは最大級だった。まさに、本の中に漫り、読書の楽しさを実感したに違いない。

【ガラスの目】（平林浩 フレーベル館）の読み聞かせから、感想詩を書かせ読み合う中で、自分はどう生きるかを考えさせたN先生。

小六師匠とは、二年前FM愛知で『邦楽のつどい』と一緒に録音したのが最後の演奏会になつたそうだ。録音の終わり頃、突然の脳梗塞で倒れられた。しかし芸の虫であつた小六師匠は、倒れながらも、三味線に向かい側の澤田さんに投げ渡して、三味線の大切さを今わの際に身をもつて教えてくださつたという。ちなみに、NHKチーフアナウンサー小六英介氏は小六満佐師匠の御子息である。

小唄を始めて四十年。習い初めの頃、自分の声が悪いと感じた私は、西洋音楽の発声法を習うために東京へ行き、発声から教えてもらつたこともあります。また、小六師匠に身をもつて教えられたように、死ぬまで勉強ですね。なかなか小唄の真髄が見えてきません。芸の上で大切なことは何ですかと、お尋ねしたら、即座に「お行儀ですね」と答えられた。

【澤田 房子 氏】

小唄小六派家元、小六房師匠澤田房子さんを、福寿町にあるお稽古場へお伺いした。部屋には三味線が五本立てかけられ、小唄のお師匠さんならではの雰囲気が部屋に満ちていた。

澤田さんの師匠は小六流宗家小六満佐師匠である。芸に厳しい師匠であつたが心優しい人で、澤田さんが三十八歳になつて弟子を持ち、初めて得た月謝を小六師匠のところへ持つていつたら、「これはあなたが働いて得た大切なお金です。これからも一層芸に励んでください」といつて神棚にお供えしてそつくり渡されたという。

向かい合つてのお稽古は大変ですねとさらにお尋ねすると、「今、お弟子さんに八十一歳の高齢の方がいます。教え教えられながらお稽古をしています。小唄は一人ひとりのお稽古ですから、その人の良さをつかめないとうまく教えられません。でも民謡と違つて、やり出すと長く続けられる人が多いのが本当に嬉しいですね」

## 小唄への道 一筋

澤田 房子 氏



小六師匠とは、二年前FM愛知で『邦

樂のつどい』と一緒に録音したのが最後の演奏会になつたそうだ。録音の終わり頃、突然の脳梗塞で倒れられた。しかし芸の虫であつた小六師匠は、倒れながらも、三味線に向かい側の澤田さんに投げ渡して、三味線の大切さを今わの際に身をもつて教えてくださつたという。ちなみに、NHKチーフアナウンサー小六英介氏は小六満佐師匠の御子息である。

小唄を始めて四十年。習い初めの頃、自分の声が悪いと感じた私は、西洋音楽の発声法を習うために東京へ行き、発声から教えてもらつたこともあります。また、小六師匠に身をもつて教えられたように、死ぬまで勉強ですね。

芸の上で大切なことは何ですかと、お尋ねしたら、即座に「お行儀ですね」と答えられた。

【澤田 房子 氏】

生年月日 大正十三年十一月三十日  
住 所 岡崎市福寿町二十番地



と、笑顔で答えられた。

これまでの人生を振り返つて、良かつたことは、国立文化庁大ホールや御園座などへ出演する体験を得たこと、各界

一流の方々と親交をいただき自分を磨く良い機会を得られたことなどだと言われる。

澤田さんの洗練された人柄は、「死ぬまで勉強です」という貧欲なまでの芸を磨く意気込みと、多くの人の出会いを大切にされてきた生きざまに培われていることを実感した。

帰りぎわ、三味線に合わせて「岡崎五万石」を歌つていただいた。素晴らしいお声であった。小唄への道一筋の心を淡淡と語られる澤田さんのスケールの大きさに圧倒されでお宅を後にした。



向かい合つてのお稽古は大変ですねとさらにお尋ねすると、「今、お弟子さんに八十一歳の高齢の方がいます。教え教えられながらお稽古をしています。小唄は一人ひとりのお稽古ですから、その人の良さをつかめないとうまく教えられません。でも民謡と違つて、やり出すと長く続けられる人が多いのが本当に嬉しいですね」

その後、子供たちが「お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい」「小さな赤ちゃんの歌」といった障害者を理解する読み物に关心を持ち、読み始めていると、先生から手紙をいただいた。

ところで、今年も全国読書調査（全国SLA）の結果が報告された。小学生の1か月あたりの平均読書冊数は五・八冊（昨年は七・一冊）、中学生は、一・九冊（昨年は二・一冊）で、いずれも読書量の減少が目立つてることが分かる。だが、二人の先生のように教師の姿勢如何で読書を子供のものにできると思う。





▲ 東海中 ハイキングの合間に物当てクイズを楽しむ養護学校の子供。

## 心の交流を はぐくむ

### 【福祉を実践する学校】

わが国は今、世界有数の長寿国となつた。岡崎市も、高齢者が安心して生活できる環境作りに努めている。教育の場においても、高齢者を含めて障害者とのかかわり、福祉の心を育てる活動的重要性が叫ばれている。

こうした中で、現在、本市の小中学校は、福祉教育について、具体的にどのような取り組みをしているのであろうか。多くの学校で実施されているのは、聾学校や盲学校などに通っている障害児を見学地の学校へ招き、年に何回かの交流学習を行う活動である。こうした活動が健常者と障害者相互の理解を深め福祉の心を育てる機会となっているのである。

また、社会福祉協力校として、岡崎市では男川小と東海中の二校が指定されている。これらの学校では、障害者との交流を深めたり福祉実践教室を開くなど積極的な活動を行っている。

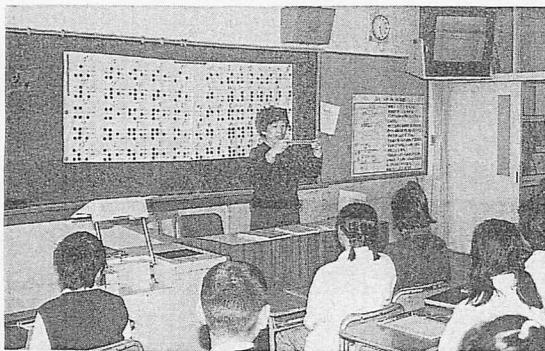
今回、各学校が、どのように心の交流をはぐくむ活動を続いているのか、写真を通して紹介したい。



▲ 恵田小 長年続いている両学校との交流。落ち葉スキー場でそりを楽しんでいる。



▲ 甲山中 生徒会を中心に昭和39年から米山寮との交流を行っている。



▲ 男川小 福祉実践教室で、ボランティアの方の指導で、点字を学習する。



▲ 三島小 プレゼントの七夕飾りを手にして一緒に歌う盲学校の子供。



▲ 南中 秋の遠足「名古屋ワンデーフリー」認学校の生徒も班の一員として参加。



▲ 福岡小 運動会に招待され、「おどるポンポコリン」の演技をする認学校の子供。



▲ 根石小 笑顔で接すれば、心が通じ合う若葉学園との交流。



▲ 竜美丘小 4年生同士、盲学校の子供たちと集会や授業の交流を行っている。



▲ 竜海中 目隠しをした竜海中の生徒と、盲人バレーを楽しむ盲学校の生徒。



▲ 連尺小 児童会が中心となって計画し、高年者センター訪問を毎年行っている。



▲ 本宿小 認護学校の子供が作ったうちわを「お店ごっこ」で買う子供たち。



## お知らせ



## 内閣総理大臣賞

恵田小二年浪花君

第十四回「日本の絵本賞」の表彰式が十一月九日、東京・丸の内の東京会館で行われた。児・児童の部で、おとうさんにお頭を刈つてもらった時のことなどを描いた絵本「とこや」で応募した恵田小学校二年浪花巧君は、みごと内閣総理大臣賞に輝いた。

また、同校では、優良賞に二年高橋聰道君、奨励賞にも二名

の入賞を果たし、同コンクールにおいて、一校のみに与えられる日本アイ・ビー・エム賞も受賞した。

スは同グランドを出発して、グラン্ডの周囲を走るもので、男

子は一八・二キロメートルを六人で、女子は六・八キロメートルを六人で、男子は十位中八校を岡崎で占めては、十位中八校を岡崎で占める好成績を収めた。

◇男子 次の入賞校は、青少年公園で行われた県大会に出場した。

◇女子 一位 竜海中 二位 矢北中 三位 東海中 四位 矢作中 五位 福岡中 六位 竜南中 八位 常磐中 十位 六ツ美中 ◇女子 一位 矢北中 三位 竜海中

## 西三河英語スピーチコンテスト

ト

去る十一月十三日、安城市民

会館で「西三河中学校スピーチ

コンテスト」が開催され、岡崎

のスピーチフェスティバルで優

秀な成績を収めた二年、三年合

わせて十名の生徒が参加した。

「暗唱の部」と「スピーチの部」

に分かれて、表現力と記憶力を競い合った。

競い合った。

入賞者は次の通り。

◇暗唱の部

矢北中二年濱石華乃子

◇スピーチの部

東海中三年丸山佳輝

■根石小児童教育振興会表彰

十四年間読書指導を継続して

いる根石小学校は、先に博報賞

を受賞したが、このほど、同功

績に対して、児童教育振興会から重ねて表彰された。

## 生平小に林野庁長官賞

## — 第二十六回全国野生生物保護実績発表大会 —

生平小学校は、自然に親しみ生きものに対する慈しみの心を

養おうと、愛鳥活動に取り組み

本年度で十年目を迎えた。この

実績をもとに、全国野生生物保

護実績発表会に応募し、県代表

となり、全国大会に参加した。

林野庁長官賞に輝いた。

## 「私たちの川」图画作品展

矢作川流域二十六市町村で組

織している矢作川流域開発研究

会は、設立二十周年を記念して

関係市町村の小中学生から「私

たちの川」图画作品を募集した。

審査の結果、本市では、次の

児童生徒が入賞した。

・建設省中部地方建設局長賞

藤川小一年梶原崇司

・愛知県知事賞

三島小一年渡邊京平

・愛知県教育委員会賞

北中三年石川知宏

・長野県知事賞

常磐南小三年柴田久美

■第十回全日本小学校バンドフ

エスティバル

十一月十日、竜美丘小学校吹

奏樂部は、香川県観音寺市で行

われた第十回全日本小学校バン

ドフェスティバルに、東海地区

代表として出場。同校は同フェ

スティバルの初回から連続十回

出場で、多くの注目を浴び、確

かな音色に高い評価を得た。

■第三十一回親と子の岡崎公園

・市長賞  
愛吉小五年星野恭子・市議会議長賞  
竜海中一年野村信三郎・市教育委員会賞  
連尺小六年伊藤穂高・商工会議所賞  
矢南小三年坂泰典・観光協会賞  
六名小三年天野さやか

・連尺小五年小田貴義

・大樹寺小二年鈴木貢成

・大樹寺小一年藤田翔兵

・三島小二年池田奈央子

・中日新聞賞  
小豆坂小三年高森亜希子

・東海中三年山本祥子

・三島小二年福岡小一年野田浩平

・名古屋市教育委員会賞  
福岡小三年山内啓太・名古屋短詩型文学連盟賞  
福岡小六年成瀬梢子・中日賞  
福岡小四年松葉梨恵

・連尺小四年福岡小六年柵木良介

・六南小一年早川かおる

・東海テレビ賞  
小豆坂小二年長坂幸俊

・福岡小一年沼田有司

・表紙写真  
・表紙詩  
・カット

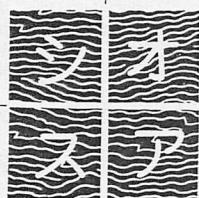
山 中 小  
山 中 小  
鈴 佐 木 加 藤 有  
木 孝 富 悟  
司 子 悟

年が改まり、年賀のあいさつを交わす新年交礼会。毎年楽しんでいる人も多く、約三千人が集う。そこで配布されるのが、一万五千人もの名を連ねた「交礼会名刺帳」である。

ここに紹介したものは、市役所に保存されているものの中でも最も古く、昭和三十四年元旦発行の名刺帳である。B6横判の大きさで、表紙は賀正の文字の下に干支のいのしし、鶴、梅があしらつてある。国會議員を中心として官庁、学校、企業等各界の役員の肩書きと氏名が記

されており、昭和五十九年よりB5判になり、所属名、氏名のほかに住所や電話番号も入り、各方面で重宝されているとのことである。さらに、翌年からは、表紙の絵も公募されるようになり、市民に一層親しみのあるものとなっている。

正月の遊びといえば、幼い頃のたこ揚げを第一とする。軽くて丈夫なひご作り、和紙の張り方、糸の張り具合など、どの部分にも自分なりの工夫があつた。風の強さや向きの読みが当たり、高く揚がったことが糸を通じて確かに手に伝えてくる時、まさに自分が天空を舞う心地であつた。



菅生川の中州に、くちばしと足の赤い小形のカモメ「ユリカモメ」がやつて来た。  
「都鳥」の名にふさわしく、太陽の城などをバックに數十羽が群れ飛ぶ光景は素晴らしい。波間に浮かぶ群れを見ると、しまりに頭を水中に突っ込み小魚を食べている。時にはゆっくり見てみたい。



市秘書課蔵

## 新年交礼会 名刺帳



*余白を語る	朝日新聞学芸部	¥1200
*ほんとうの私を求めて	遠藤 周作	¥1100
海竜社		¥1400
*心に残るさまざまの話	宇野 信夫	
講談社		¥1400
*精神科医の子育て論	服部 祥子	
新潮社		¥ 880

※福沢諭吉 中津からの出発 横松 宗  
朝日新聞社 ¥1050

一万円札の顔、福沢諭吉について、私たちはどれほどの認識があろうか。『学問ノススメ』冒頭の一節をそらんじているだけでは「魂なき偶像」となる。

近世から近代への激動的転換期に、諭吉が、何のために何を意図し、郷土・日本のために何をしたか。彼の状況判断、先見性、行動力、業績に感服させられる。

今や国際化が叫ばれている一方で「精神的鎖国化」が進みつつあるという。諭吉の思想の原点を今一度見直したい。